

# あこがれのなつ

5月 

発行責任者  
西川 晃二

【校長室より】

## 教育アイランドを目指して

5月9日付け新聞各紙は衝撃的な記事を掲載した。内容は地方で暮らす女性が30年間で大幅に減り、全国の自治体の半分が「将来消滅する可能性がある」というものだ。また、NHKは「極点社会～新たな人口減少クライシス」という番組で2040年には地方の衰退だけではなく、日本自体が縮小していく危機が訪れるという。最も深刻なのは既に高齢者すら減少を始めている市町村が急増。高齢者の年金で成り立っていた地方経済がシュリンク（縮む）し、雇用の場を失った若年女性が首都圏に流入。地方では若年女性が消え「限界自治体」化、首都圏では子どもを生み育てられない女性が増加、結果的に日本全体が縮小し始める危機的な人口問題が起きるといふ。

5月25日読売新聞は過疎化が進む地域で、全国から生徒を募集する公立高校が増えているという記事を掲載した。自治体との強力なタイアップによる学校存続に向けて全国各地の高校が取り組んでいる。その記事の中で島根県隠岐島前（どうぜん）高校が取り上げられている。島前高校については、個人的に、以前から長崎県の離島の高校が参考にできるものはないかと同校の取り組みに注目してきたところです。同校の取り組み、というより自治体の取り組みは、五島高校の今の状況であれば、より一層の効果が期待される。五島の島全体が教育への投資を活発化させることで、教育アイランドとして、全国のモデルケースにもなりうるものと信じている。

以下に「隠岐島前高校新魅力化構想」から最悪のシナリオを紹介します。最悪の事態にならぬ為に、そして危機意識を持って五島高校の活性化へ取り組みたいと思うからです。

本土行き最後のフェリーが動き出した。

この島と一緒に死ぬといっけかかない老人だけが島に残った。

錆の浮いた港湾施設が遠ざかる。

岸壁に書かれた「ござらっしゃい」の文字が虚しく波に洗われている。

永訣を告げる最後の汽笛が、湾内に響き渡った。

丘の上には、ボロボロになった旧島前高校の校舎が、悲しそうに佇んでいた。

この島前地域に襲いかかってきた過疎、少子高齢化に伴う地域の衰退、そして高校の存続の危機。かつてこの状況に抗い、立ち向かった人々もいた。

地域と協働した特色ある授業、公立塾の設置、島外からの生徒の募集など、多くの抵抗や困難があるなかで打てる手は打った。高校魅力化に向けた様々な取り組みは一時的に脚光を浴び、高校は復活したかのように見えた。しかし、やはり永くは続かなかった。

生徒増と学級増により「危機が去った」と安心したことで、高校魅力化に向けた地域の情熱は消えていった。頑張っていた教職員や関係者も異動や退職などで移り変わっていき、勢いは失われていった。島外から入ってくる生徒は次第に減り、島前3町村の中学生の数の減少とあまって、平成3X年秋、島根県は島前高校の学級減を発表。これによって島前高校の命運は尽きた。魅力化の流れは完全に終わり、衰退化に向けた逆行が一気に始まった。学級数が2学級から1学級に減っていくことで教職員数は段階的に減り、難関大学への進学は困難となり、ヒトツナギ、野球、バスケット、バレー、レスリングなど部活動の休部も続き、島前高校への志願者数はさらに拍車をかけて減っていった。重なる赤字により公立塾や寮も閉鎖、為す術もないまま島前高校は隠岐高校の分校となり、その数年後、廃校が決まった。

島前高校が廃校になった後、島前地域への子ども連れのUターンは途絶え、逆に子どものいる家族世帯の島外流出に歯止めがからなくなっていった。知夫村では子どもが生まれない年が何年も続き小中学校は休校になり、高齢化率は70%を超えていった。海士町は若いUターン者の流出が続き、2校あった小学校は統廃合され、第三セクターも潰れていった。西ノ島町は漁業や畜産業の担い手は途絶え、子どもや若者の減少により精霊船（シャウラ船）も十方拝礼（しゅうはいら）も消えていった。赤字が続いた隠岐汽船は寄港地の集約化とダイヤの効率化を図り、隠岐で1港、1日1便、フェリー1隻体制に移行していった。これにより島前の観光業は更に衰退していった。こうした状況において、島前に住みたいという医者はいなくなり、島後や本土から医者が定期的に通ってくる体制に変わり、住民の医療に対する不安は高まるようになった。3町村ともに財政状況が悪化し行き詰っていった結果、隠岐の島町との合併を決断。編入合併後、住民への福祉や医療、行政サービスは低下し、人口の流出は一層激しくなった。「最期まで島に残りたい」と言っていた高齢者たちも、診療所や商店も閉まり、廃墟と化した集落の中で話し相手もいなくなっていくなか、島に残ることさえ厳しくなっていった。そしてついに数人だけを残して苦難の集団離島がはじまった。

こうして、数千年続いてきたこの島前の歴史と文化は、22世紀を迎えることなく幕を下ろすことになった。その後、島前近海では外国漁船の違法操業が繰り返されるようになり、荒れ果てた集落には不審な人影が見えるようになったという。

多くの過疎地域と高校に希望を与えていた島前高校の失墜により、全国の高校の統廃合は一気に加速。ほとんどの過疎地域から高

(No.2に続く)

## (No.1より)

校が消え、子どもや若者が消え、希望や活力が消え、国土の大半を占める地方は疲弊し、日本の少子高齢化と人口減少は加速度的に進んでいった。

これは一つの未来。——手綱をゆるめるとまっしぐらに向かっていくであろう未来の姿である。

この成り行きを回避し、意志ある未来を迎えるためにも、魅力化プロジェクトは更なるビジョンを掲げる必要がある。

(「隠岐島前高等学校新魅力化構想」プロローグ から)

## スポーツコース集会 4/23 (水)

今年度のスポーツコース新入生は、男子10名、女子1名の計11名です。会の初めに西川校長から、スポーツコースに対する期待などについて訓辞を頂きました。スポーツコース生は、真剣な眼差しで聞き入っていました。次に、新入生からの自己紹介があり、全員元気良く、自己の目標を掲げると共に、今後3年間努力していきたいと力強く抱負を述べていました。また、上級生(3年柳田真子さん、2年宮脇航平君)からの激励の言葉では、共に励み、互いに高みを目指そうという意気込みが感じられました。この集会で、スポーツコース生全員が五高生としての誇りはもちろん、スポーツコース生としての心構えが高まったと確信しています。



## ふるさと散策 4/25 (金)

4月25日(金)に全校生徒が参加して「ふるさと散策」が行われました。この行事はクラスごとに4~6名で班を編成し、体力・精神力、そして仲間と助け合う協調性を養うとともに、住み慣れたふるさとを再発見することを目的として毎年行われています。

今年のコースは銚瀬海岸で、往復約20kmの距離を歩きました。天候にも恵まれ、生徒達は友達と楽しく話したり、ふるさとの自然に触れたりしながら、みんな元気に歩きました。また、往路のみはらし荘前や塩津神社のチェックポイントでは、五島高校や五島の歴史・自然に関するクイズが出題され、班員全員で一生懸命考えました。銚瀬海岸に到着後はすぐ昼食をとり、その後は3年生有志による1年生を歓迎する出し物を鑑賞したりするなど、生徒全員が楽しんでいました。最後は、銚瀬海岸の清掃活動を行い、鬼岳を一周するようなコースで学校に戻りました。

事後の生徒アンケートでは90%の生徒が「楽しかった」と答えていました。とても暑い中、班員で助け合い、励まし合いながらゴールすることができ、達成感を得られた一日となったようです。



## メディア安全教室 4/28 (月)

4月28日(月)の7時間目に、「メディア安全教室」が行われました。例年、「携帯電話安全教室」という演題でNTTドコモの方からお話をいただいていたのですが、今年度は、ネット社会の負の部分をもっと具体的に教えていただくことを目的に、長崎からメディア安全指導員である宮崎孝先生をお招きしました。多くの生徒が利用している「LINE」による人間関係のこじれや個人情報の流出が引き起こした実際の犯罪事案を詳しく説明していただきました。生徒の身近で起きうることはばかりで、メディアに触れる際の戒めになったと思われます。今回の講話を教訓にして、ネット社会に浸ることなく現実社会でより健全な人間関係を築いて欲しいと思います。



## 校歌・遠征歌練習 20 (火) ~ 22 (木)

5月20日(火)~22日(木)の3日間、放課後に校歌・遠征歌練習を行いました。高総体期間中に学校に残る生徒たちが、激励の思いを熱い歌声で届けるために練習しました。

練習には文化部の生徒と体育部の一部の生徒が参加し、全校生徒が3グループに分かれ、各グループのリーダーである3年生を中心に練習を進めました。お互いに声の大きさをチェックしたり、各グループで工夫を凝らしながら練習し、3日間の練習で生徒達の気持ちも1つになってきたようです。3年生にとっては、最後の高総体となります。全力を尽くして、最後の最後まで諦めない戦いをしてきてほしいと思います。また、代表として出場する選手、五島から応援する生徒、全員が同じ思いで戦っていきましょう。

## 「五高いじめ根絶標語決定」 16 (金)

今年も全校生徒に呼びかけて「五高いじめ根絶標語」を募集し、その中から今年度の標語として、右の2作品に決定しました。

さらに、5月16日(金)の全校集会において、生徒会より発表してもらいました。新聞部の協力により、ポスターも作成してもらっています。今後も、「いじめは許さない」という一貫した姿勢で、生徒の学校生活をサポートしていきたいと考えています。

「必要ない

そんな人間

いやしない」

「いやなこと

している自分

好きですか？」

## 「長崎っ子の心を見つめる」教育週間 20 (火) ~24 (土)

5月20日(火)~24日(土)、「長崎っ子の心を見つめる」教育週間を実施しました。授業や部活動の公開、五高いじめ根絶標語の作成、第1回悩み調査(1学期の私が思うこと)の実施などに取り組みました。

最終日のPTA総会の折に、臨床心理士であり、本校を含め多くの学校でスクールカウンセラーとして活躍されている山野有希先生による講演会を開催しました。「思春期の子どもと向き合う」と題して、思春期前後の親子関係や、今の子どもたちにある「問題」、そしてそのような子どもたちに今から私たちがすべきことなどわかりやすく話してくださいました。参加して下さった多くの保護者の方々からも、「大変参考になりました」という感想をいただくことができました。教育週間中は、お忙しい中保護者の皆様に多数ご来校いただきありがとうございました。



## PTA総会 24 (土)

5月24日(土)にPTA総会、講演会、学級懇談会が行われました。当日は多忙な中、多数の保護者の皆様にご出席いただき、誠にありがとうございました。総会を通して、昨年度の学校の運営に関する報告を行い、今年度の事業計画について説明をいたしました。また、本校スクールカウンセラーの山野有希先生より子どもたちとの向き合い方について講演をしていただきました。学年や学級の懇談会では、お子様に対する「想い」もお伝えすることができたのではないかと考えております。

今後ともこうした機会を通して、教育の在り方について共通理解を図り、PTAの皆様のお力をお借りしながら、お子様の学校生活の充実に努めていきたいと存じます。今後は、9月に1・2学年PTA、10月に3学年PTAを実施いたします。また、11月には、五島地区PTA研修会が(上五島高校)で開催されます。多数のご参加をよろしく願います。

## 五島高校に入学して

1年生に五島高校に入学してから1ヶ月の印象を書いてもらいました。

五島高校に入学して早一ヶ月が経ちました。中学校と比べて、授業のスピードや家庭学習の質が上がり、最初はついていけないか不安でした。しかし、宿泊研修や普段の授業で、周りの勉強に対する意識の高さを感じ、自分も負けられないように頑張ろうと思いました。今はまだ慣れるのに精一杯ですが、五高生としての自覚を持ち、自分の夢の実現に向けて、実りのある三年間にしたいです。(普通科普通コース)



新入生宿泊研修

五島高校に入学して一ヶ月が経ち、私は少しではありますが、成長できていると実感しています。衛生看護科は普通科とは違い、専門教科を学んでいきます。専門の授業は難しく、入学当初は授業についていくのがやっとでした。しかし最近では、予習を行わわからない用語は調べる学習を行い、授業の内容を理解しながら聞くことができるようになりました。

また今ではベッドメイキングなどの校内実習も入ってきています。実習では患者様のことを最優先して行動していかなければなりません。自分が行った行動一つひとつに責任を持ち続けなければならないと思っています。初めての中間考査が終わり気が緩んでいる人もいますが、6月に行われる施設実習に向け、そして自分の夢実現に向け頑張っていきたいと思っています。(衛生看護科)

## 高総体に向けての抱負

5月30日（金）から高総体が行われます。高総体を間近に控えた各部のキャプテンに、目標と抱負を書いてもらいました。各部とも目標が達成できるように、力を発揮してきて下さい。

### ○長崎地区

陸上部（3-6 河野卓実）

#### 【目標】インターハイ出場

県大会、さらに北九州大会で6位以内入賞を果たせばインターハイに出場できます。目標のためにまずは県大会優勝を目指します。



高総体壮行式

男子バスケットボール部（3-4 山下康次郎）

#### 【目標】県ベスト4

今まで練習してきたことや、試合での経験を自信にして、目標のベスト4を成し遂げたいです。

女子バスケットボール部（3-2 上田千富世）

#### 【目標】ベスト8

毎年惜しくもベスト16なので、チーム一丸となって五高女バスのプレーを発揮し、目標であるベスト8に入ります。

バドミントン部（男子）（3-5 濱村歩夢）

#### 【目標】高総体優勝

県新人戦ではベスト4入りを果たしました。高総体ではベスト4に留まらず部員全員で全力を尽くして優勝旗を取れるように頑張ります。

バドミントン部（女子）（3-4 才津優花）

#### 【目標】ベスト8！

私たちは高総体まで毎日一生懸命練習してきました。今年の高総体は3回戦を突破し、ベスト8を目指して頑張ってきます。

### ○中地区

剣道部（男子）（3-6 田中喜登）

#### 【目標】優勝

3年生は最後の高総体なので、悔いの残らない試合をし、部が一致団結して、一戦一戦に全力を出し、優勝旗を持って帰ってきます。

剣道部（女子）（3-6 柳田真子）

#### 【目標】インターハイ出場

私たちは今までの大会で入賞がありません。だから、必ず優勝旗を持ち帰ります。強気で貪欲にチャレンジ精神で勝ちを取りに行きます。

柔道部（男子）（3-6 山本信哉）

#### 【目標】優勝

私たちは今まで、優勝だけを目指してがんばってきたので、悔いの無い試合をし、必ず優勝します。応援よろしくをお願いします。

柔道部（女子）（3-1 松野美月）

#### 【目標】団体ベスト4入り

私たちは、長い間団体ベスト4入りを果たせていません。今まで練習してきた成果をすべて出しきって悔いの残らないよう頑張ります。

サッカー部（3-5 宮崎寛之）

#### 【目標】県ベスト8

高総体では、自分たちらしいプレーをして、目標であるベスト8のために、チーム一丸となって頑張りたいと思います。

卓球部（3-1 藤原拓道）

#### 【目標】団体ベスト8

これまで共に練習してきた仲間のため、応援してくれ<sup>なかま</sup>る友達のためにも、一球一球魂のこもったプレーをします。

男子バレーボール部（3-4 川口良平）

#### 【目標】県ベスト8

昨年ベスト16で終わり、今年はベスト8を目標としてきました。今年こそは目標に届くように頑張ります。

女子バレーボール部（3-3 平山阿希）

#### 【目標】ベスト8

この高総体のために日々練習を積み重ねてきました。全員バレーをモットーに試合を見る人たちに感動を与えられるプレーをしてきます！！

### ○佐世保地区

男子ソフトテニス部（3-5 久保幸太郎）

#### 【目標】団体戦ベスト4

部員全員で高総体に向けて練習に励んできました。その成果を全て出し切って、団体戦も個人戦も勝ち進んでいきます。

女子ソフトテニス部（3-7 中村史果）

#### 【目標】ベスト8

一球一球を大切に、目標を達成できるようベストを尽くします。佐世保地区はソフトテニスだけですが、応援よろしくをお願いします。